

明大マンドリン倶楽部、35年振りに富山公演 多くの校友ら、古賀メロディなど堪能

富山県支部創設120周年、全国校友富山県大会10周年を記念した「明治大学マンドリン倶楽部2019富山公演」は、9月14日（土）オーバード・ホールで1,400名の来場者を迎えて開催しました。富山県内では35年振りとなり、久々の演奏会とあって、校友の皆さんもその開幕を楽しみにしていました。観客席はすべて自由席であったために、当日は開場前には長蛇の列となり、予定より10分早く開場しました。冒頭、主催者代表挨拶に立った島田支部長は、実行委員会と共に支えた父母会との一体感を強調。スローガンとしている「明治はひとつ！」を大きくアピールし、「懐かしいマンドリンの魅力をご堪能ください」と挨拶。母校校歌の演奏で始まった公演は、1部「古典音楽」、2部「心に残る日本のうた」、3部「世界名曲綴り」の3部構成で、繊細な音色とダイナミックな演出で多くの観客を魅了しました。また、第1部終了時に、支部と父母会の代表（花當鈴代さんと古谷真由美さん）、第3部終了時には県内で唯一のマンドリンクラブがある志貴野中学のクラブ員代表からマンドリン倶楽部に花束の贈呈が行われました。終演後、カナルパークホテルにおいて倶楽部員と実行委員との懇親夕食会を行い、学生達を慰労しました。